

講義名	基礎簿記		
担当教員	孫 美良		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**

簿記は企業の利益を計算するための技術で、利益計算には二つの意味が含まれています。一つは儲けたかどうかを知るための事後的な計算（この計算結果は株主、銀行、一般投資家など会社外部の利害関係者に開示される）、もう一つは儲けるための事前的な計算（この計算結果は経営者が経営戦略を立てるために用いられる）です。この計算技術の基本的な仕組みが理解できれば、会社経営はもろもろ会社の経営実態を理解することができます（たとえば、株式投資のための企業分析を行うとき）。簿記の計算技術によって作成される財務諸表には、会社の経営実態を把握するための豊富な情報が含まれています。

本講義の履修を通じて、企業の財政状態、経営成績に関する簡単な財務諸表を作成することができ、財務的な視点から企業の問題点を理解するために必要な基礎能力が身に付きます。本講義では財務諸表を読むための第一歩となる複式簿記の基本をマスターすることを目的とします。講義内容は概ね日本商工会議所主催の簿記検定4級から3級までのレベルに相当します。

**到達目標**

日本商工会議所主催の簿記検定試験4級、3級に相当する内容のうち重要な部分について理解できるようになります。

**提出課題**

ほぼ毎回の講義で課題の提出を求めます。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

解答の配布と解説は、講義中適宜実施します。

**評価の基準**

平常点50%、定期試験50%の割合で評価を行います。

**履修にあたっての注意・助言他**

基礎簿記では簿記の基本用語や仕組みの解説をするので、欠席するとその後の内容の理解に支障が出ます。毎回出席することを心掛けてください。

教科書				
.使用しない。				

**プリント資料及び参考文献**

<プリント資料>  
講義中、配布します。

<参考図書>  
4級の参考図書：  
『独逸式簿記4級商業簿記』三訂版税務経理協会出版、2008年  
3級の参考図書：  
『基礎簿記のエッセンス』中央経済社出版、2011年

**授業計画**

第1回 会計と簿記の意義  
第2回 貸借対照表と損益計算書  
第3回 仕訳と転記  
第4回 期中取引：商品売買取引  
第5回 期中取引：商品売買取引  
第6回 期中取引：現金・預金取引  
第7回 期中取引：手形債権債務・未収入金/未払金  
第8回 期中取引：固定資産  
第9回 試算表の作成  
第10回 中間試験  
第11回 決算とは  
第12回 決算整理：売上原価の計算  
第13回 決算整理：減価償却  
第14回 精算表の作成  
第15回 精算表の作成

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

簿記の知識を習得するには、授業中の学習だけでは不十分で、必ず自宅での予習と復習が必要となります。その一方で簿記は正解が1つしかないため、自分の理解が正しいかどうか確認しやすく、こつこつ努力した成果が成績に如実に反映される科目でもあります。事前に配布した資料や指示に従って予習（2時間）し、講義終了後は当日内容の理解を定着させるために復習（2時間）を心掛けてください。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

卒業認定・学位授与の方針（1）との関係：簿記の初歩的な知識になるため業界の動向や問題点を理解するまでには至らないが、財務的な視点から問題点を理解するために必要な基礎能力が身に付きます。

卒業認定・学位授与の方針（5）との関係：企業の財政状態、経営成績に関する簡単な財務諸表を作成することができます。

卒業認定・学位授与の方針（6）との関係：財務的な側面から企業が直面する問題や強みを発見するための基礎能力が身に付きます。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

双方向授業の実施：講義中、教員からの質問に対し自らの考え方を整理し、発言する機会はほぼ毎回あります。

ICTの活用：パワーポイントを利用して講義します。コロナの関係で、オンライン講義を継続する場合は、TeamsやZoomを利用する予定です。

**実務経験の有無及び活用**

**備考**

対面講義を基本とします。しかし新型コロナウイルス感染症の状況によりオンデマンド講義となった場合にはシラバスが修正される可能性があります。

- 496 -